

湯原温泉郷

(岡山県真庭市)

注目ポイント！

観光と医療の連携(ホットドック)と温泉指南役養成による地域の活性化。
地元企業との協働によるEDF事業でエコ観光と産業観光を創出。

エコ観光による来訪者が約6,000人(平成16年度)
から約20,000人(平成17年度)に急増！



湯原温泉の露天風呂

コラム

若くから町づくりの先兵となって活躍。ネット利用による情報発信で全国のリーダー的役割を果たし全旅連情報戦略委員会委員長を1996年から現在まで務め、近年は地域の歴史の研究と温泉との関わりに没頭。温泉指南役養成や温泉環境問題を幹に町づくりをプロデュース、協働事業を起こしている。



湯原町旅館協同組合
代表理事 古林 伸美氏

これまでの経緯

- 昭和55年(1980) 露天風呂番付「西の横綱」をキャッチフレーズに個人旅行への移行を模索開始。
- 昭和62年(1987) 6月26日を語呂合わせで「露天風呂の日」としイベントでの知名度アップを開始。
- 平成8年(1996) インターネットでの情報発信を町ぐるみで開始。
- 平成15年(2003) 全国紙のコラムにて「宿泊者1人当たりの湯量、日本一」を発表。
- 平成15年(2003) 温泉指南役養成事業を開始。
- 平成16年(2004) 東京で第一回温泉指南役全国フォーラムを開催。
医療と観光との連携から人間ドック付き宿泊プラン「ホットドック」を開始。
- 平成17年(2005) 地元企業との協働にて廃食用油再生事業を開始。
- 平成18年(2006) EDF普及組織NPO「ええ子・ブック」を設立。
インバウンド推進事業「宿めぐりプラン」(泊食分離)を実施。

主な取り組み

EDF:エコディーゼル燃料事業

「ゼロエMISSIONの温泉が自慢の湯街だからこそ環境に配慮した事業を」との思いで、旅館が捨てる天ぷら油での送迎車の走行を決意。現在、市民運動に発展し、月産約4,000リットルのEDFを生産。送迎のみならず、エコ観光に取り組み、市の産業観光にも参画。(EDFは、Eco Diesel Fuelの略)



エコディーゼル送迎出発式



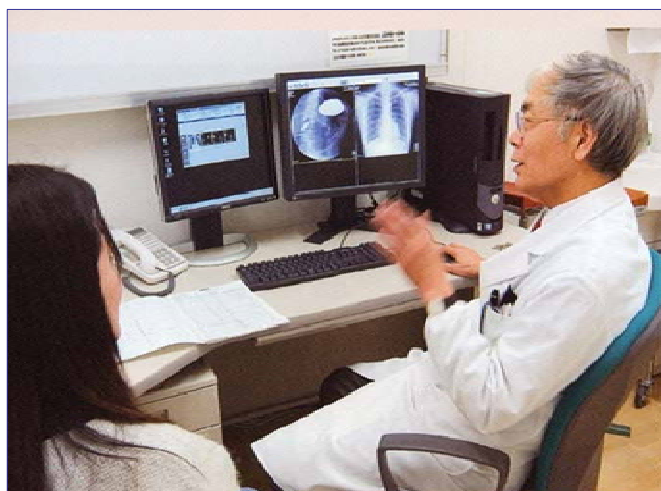
温泉指南役・全国フォーラム

温泉指南役・養成事業

陳腐化していた温泉郷、宿泊客も減少。そんななか、温泉の魅力アップ、リピーター客確保のため、温泉の正しい知識を習得し、お客様に健康的で安全な入浴法を伝える技術を身につけた人材を養成。平成15年から始まり、現在65名の指南役が町で活躍。宿泊施設や飲食店の従業員、マッサージ師も参加。

ホットドックプラン・医療と観光

市営の湯原温泉病院と湯原町旅館協同組合が連携し、人間ドックを組み込んだホテル旅館の宿泊プランを設定。さらに病院との連携を深めたりハビプランも開発。



温泉病院

「宿めぐりプラン」泊食分離事業

外客誘致の対応を進めるため、各宿泊施設の朝夕の食事を宿泊者が選択し、宿を巡るプランを開発。湯街の飲食店も参加。案内手配は、宿泊のホテル旅館が担当。



湯街での食事

問い合わせ先

真庭市企画観光部観光振興課

Tel : 0867 - 44 - 2647 <http://www.city.maniwa.lg.jp/webapps/www/index.jsp>

湯原町旅館協同組合

Tel : 0867 - 62 - 2600 <http://www.yubara.com>